

鹿児島大学歯学部創立40周年を迎えて

鹿児島大学名誉教授 西 川 殷 維



鹿児島大学歯学部創立40周年を迎えられたこと、誠にありがとうございます。これも偏に、歯学部の創設と発展に多大のご尽力を賜りました鹿児島県歯科医師会、医学部ならびに教育・研究・診療に奮闘してこられた

歯学部の諸先輩と全教職員、同窓会の皆様、また、多くの患者様やそのご家族の皆様のお蔭と心から感謝申し上げます。

歯学部と私の関わりの一部を紹介させていただきます。私は、歯学部創設に当たって、昭和55年、歯科薬理学講座の助教授として広島大学歯学部より、転任してきました。以後、平成3年に教授に就任しました。研究は化学伝達物質の遊離機構に関する研究で、細胞膜と小胞膜酵素である各種ポンプ酵素の動態と分泌機構に必須であるカルシウムイオン（大量では細胞傷害）との関係について検討しました。また、高齢化社会を迎え、抗認知症薬の開発に資する知見を提供したいと考え、佐藤友昭助教授（現教授）と共に研究を進めました。しかし、平成14年、鹿児島大学評議員に、平成15年に学部長に推挙されたことから、研究活動は佐藤助教授に任せ、専ら教育と歯学部の纏め役として、管理運営に重点を置くようになりました。私が取り組んだ項目とその概要を簡単に述べさせていただきます。

① 国立大学の独立行政法人化。平成11年4月に閣議決定されたことに始まり、平成16年、鹿児島大学も法人に改変されました。その結果、公共性、透明性、自主性、財務・会計、評価と終了時のその検討等、独立行政法人法の通則法が準用されることになり、聖域のない厳格な見直しが必要となりました。そのため ①自己点検・評価および第三者評価の導入、②学生に対する教育・修学、進路、健康等に対する配慮、③委託・共同研究の推進、④公開講座等の開設、⑤国際交流の促進、⑥研究成果の発展とその成果の活用促進、⑦中期目標・計画の策定---等が義務付けられました。多くの先生方の協力を得、関係書類を提出することになりました。また、公開講座の開設に当たっては、県

内外の歯科医師会の先生方の協力を頂きました。

② 大学院重点化。研究活動を活発にするため、従来の学部を基礎とした組織から大学院を中心とした組織に改変する機運が全国にたかまり、平成15年、歯学部も医学部と重点化を進め、医歯学総合研究科として発足することになりました。以降、医学部と協調して、特徴のある教育・研究・診療組織の再編統合に努めました。

③ CBT（コンピュータを使用した学習支援システム）と OSCE（客観的臨床能力試験）の導入。これは、臨床実習開始前の学生の知識と技能を、全国的に標準化して評価する試験で、平成14年のトライアル期間を経て、平成17年、本格的に参入致しました。ワークショップへの参加、問題作成を始めその実施に多くの時間を費やしました。CBT 問題の採択率は全国歯系28大学中1位でした。歯学部全教職員に深く感謝申し上げます。また、外部評価では諸先生にご協力を頂きました。

④ 歯科医師臨床研修制度の制定。平成16年、歯科医師として、歯科医学及び歯科医療に果たすべき役割を認識し、一般的な負傷、又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身につけるために制定されたもので、大学間の相互乗り入れを可能にすることが義務付けられました。これに対応するため、そのプログラムの作成と実施に、臨床系の諸先生には随分とお世話になりました。

⑤ 国家試験の合格率の向上。平成14年以降の国家試験の合格率が良くなかったことから、平成17年度から卒業試験を取り入れ、国家試験合格率と学習効果の向上を図りました。学生には、臨床実習時間を学習時間に振り替えて勉強してもらうことにしました。その結果、新卒者の合格率、100%を達成しました。しかし、不運なことにパソコンの集計上のミスとその確認に怠りがあり、学生、教職員、鹿児島大学に多大なご迷惑をお掛けしました。改めてここに深くお詫び申し上げます。

⑥ 国際交流促進。学部間協定大学のタイ国プリンス・オブ・ソンクラー大学歯学部を和泉教授（現東京医

科歯科大学教授）と共に表敬訪問（平成17年）しました。

以上、歯学部創立40周年を迎え、充実した年月を送らせて頂きました鹿児島大学歯学部へ深甚の謝意を表すとともに、歯学部の益々の発展を心より祈念致します。



プリンス・オブ・ソクラー大学歯学部にて



公開講座